



産業遺産の染色型紙修復

静岡文化芸術大生報告展示

静岡文化芸術大は10日まで、学生が手掛けた染色型紙の修復作業の報告展示会を浜松市中区の同大で開いている。「地域の産業遺産を残そう」と奮闘した活動を紹介する。

修復した型紙や作業工程を紹介するパネルが並ぶ報告展示会。浜松市中区の静岡文化芸術大

会場には、修復を終えた格子柄や籠目柄の型紙8枚と、作業工程などを説明する写真パネル約20枚が並ぶ。緻密な修復過程をうかがい知ることができ

活動は2017年、学芸員資格取得を目指す学生らが市博物館(同区)と共同で型紙2万枚を調査し、整理

を始めたことがきっかけとなった。銅板に型紙の柄を写し取り、板を円筒形に丸めた「カゴ」で布地を染める機械染色の技術「カゴツケ」の型紙を修復した。

型紙には職人の手で彫刻が施されている。触れると崩れてしまうほど劣化した型紙を保存しようと今年、「型紙レスキュー隊」として修復活動を始めた。

学生は博物館学芸員から指導を受け、和紙を繊維状に裂き、型紙の破れた部分を裏から接着してつなぎ合わせた。ピンセットや絵筆を使って数ミリの破損などを修復する繊細な作業で、1枚の型紙を2人がかりで修復することもあったという。

4年生の高橋悠花さん(21)は「保存、修復に主体的に関わることができた。後輩にも話してもらいたい」と話した。
(浜松総局・白比野都夏)